

榊原家墓所

この地は、江戸時代（1603 年～1867 年）に姫路城の藩主を務めた大名榊原家の 2 人を祀っている。左側の石塔と石碑は、その人生最後の 2 年間、姫路藩主を務めた榊原政房（1641–1667）を祀っている。「故式部大輔侍従四位下源朝臣」と石碑には彼の正式な階級と称号が刻まれている。「源」という名前が含まれていることは、政房と徳川家との家系上のつながりを表している。徳川家自体が、日本で最初の武士の棟梁であった源頼朝（1147–1199）からの家系であると主張していた。右の墓は榊原政佑（1705–1732）を祀っている。

二つの石碑は中国の伝説上の亀（亀趺：キフ）の上に立っており、その亀は努力と勤勉さの象徴である。それぞれの石碑の背後にある石塔には、サンスクリット語のシッダム文字で書かれた仏教宇宙論の 5 つの要素を表す文字が刻まれている。上から、「空」、「風」、「火」、「水」、「土」と読む。

この二つの記念碑は、後の姫路藩主榊原政岑（1715–1743）によって 1734 年頃に建立された。政岑（まさみね）は金遣いが荒いことで知られていた。有名な吉原の遊女を落籍するために大枚をはたいた後、すぐに小さな藩に転封させられた。政岑は姫路の藩主として、毎年 6 月に開催される夏の浴衣祭を始めた。榊原家の子孫は今もお祭りに参加し、その後で先祖の墓参りをしている。墓地の前を飾っている多くの提灯は、かつて榊原家の家臣であった家族の子孫が、この期間に訪問し寄贈したものである。